

メビウス∞レポート



特定非営利活動法人メビウス千葉 活動報告 令和4年1～3月号（4月16日発行）

メビウス会員の皆様、並びに寮生のご家族の皆様、日毎に新緑からの木漏れ日が眩しくなってきた今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。

常日頃からメビウス千葉の諸活動に対する多大なるご支援・ご理解を賜り誠にありがとうございます。今後も引き続きご支援・ご指導を賜りますよう、何卒、宜しくお願い致します。

いい街千葉 フリーマーケットに出店しました。

昨年の11月28日（日）に引き続き、3月27日（日）に行われた「いい街千葉 フリーマーケット」に出店しました。

今回も2区画申し込み、海苔とマスク・ストラップを販売しました。予想通り今回も海苔の売れ行きが好調で、898袋、89,800円の売り上げでした。一方マスク・ストラップは、1,500本用意したうち30本3,000円の売り上げと、少し残念な結果となりました。



前回の参加者は3名でしたが、今回は8名に増え、交代で休憩をとりながら楽しく参加することができました。



コロナ禍でマスク姿が日常となっている昨今、潜在的なマスク・ストラップの需要はあると思います。終了後、陳列や商品の見せ方、説明の仕方などの売り方を工夫する必要があるという意見が出ました。今後はminneなど通信販売にも力を入れていきたいと考えています。

『メビウスファーム』の始動。



3月23日（水）から大網白里市の水田で、新プログラムとなる稲作作業『メビウスファーム』始動に向けた準備を開始しました。

全員での参加は難しいため、現在数名の寮生が週2回、まずは長年使われていなかった田んぼの草刈りや畔の修繕を行っています。今後は糞を撒き、土を耕し、田植えはBBQイベントとして行う予定です。

将来的には就労継続支援B型事業所として運営することを目標に、準備を進めています。



メビウス千葉 動静報告。(令和4年1月～3月)

※特に記載がない場合、入退院は下総精神医療センターです。



1月

- 女性1名（PTSD）建造物不法侵入及び放火未遂により逮捕。後日、再入院。
- 女性1名（違法薬物）、退院。
- 女性1名（窃盗症）、諸事情により退寮。
- 男性1名（アルコール）膵炎のため千葉県内の総合病院に入院。
- 男性1名（処方薬）が他の寮生の部屋に無断で侵入し、物を盗む。
- 男性1名（覚せい剤）、体験入寮。（23日まで）
- 女性1名（違法薬物）、意図的にタバコ2本を飲み込む。結果的に再入院。
- 男性1名（窃盗・暴力・ギャンブル）、退院後入寮。
- 男性1名（大麻等）、退院後入寮。翌日脱走。
- 男性2名（窃盗症・鎮咳剤）（処方薬）が暴力を伴う喧嘩。一方が警察と救急車を呼び、施設長と職員が対応する。翌日2名が再び喧嘩。職員が収める。
- 女性1名（窃盗症）が足の痛みで自ら救急搬送要請。
- 男性1名（窃盗・暴力・ギャンブル）、失踪。
- 男性1名（窃盗・暴力・ギャンブル）、無断外泊。
- 男性1名（覚せい剤）、体験入寮。（2月8日まで）
- 男性1名（覚せい剤）、38、6度の熱発のため、病院で抗原検査。結果は陰性。
- 女性1名（窃盗症）、そば屋で万引き。出入禁止となる。
- 男性2名（覚せい剤）（処方薬）が言い争い。

2月

- 男性1名（処方薬）、救急搬送を要請、特変はなく帰寮。職員から安易に救急車を呼ばないように厳重注意。
- 女性1名（処方薬）、訪問看護の際、低血糖で倒れ千葉市内の総合病院に救急搬送。
- 施設長拘留のため不在（22日まで）
- 男性1名（処方薬）、入院予定だったが、本人が固辞。今後、問題行動を起こした際は即入院させる誓約書を交わす。
- 男性1名（性犯罪）、複数回女性寮生を触る。
- 男性1名（窃盗症）、父親から施設長が検挙されたことと、1日当たりの小遣い銭では生活が難しいから退寮させたいとの申し出があったが、職員が何とか説得して思いとどませた。
- 男性1名（性犯罪）、寮生を含めた女性3名を触ったことが発覚。病床が空き次第再入院とし、それまでは外出を制限・買物同行・職員同伴による外出とした。
- 男性1名（覚せい剤）、退院予定だったが、試験外泊中、自ら薬を調整して服用していることが発覚し、退院延期。試験外泊は続行。
- 男性1名（性犯罪）、住居不法侵入の疑いで逮捕。

- 女性1名（覚せい剤）、入寮。下総精神医療センターの病床の空き待ち。
- 男性1名（覚せい剤）、血便のため救急搬送されるも、特変はなくその日のうちに帰寮した。
- メビウス千葉・本部の入寮者（性犯罪）に新型コロナ感染の疑いがあり、本人を含め、本部住まいの寮生は暫くの間自室隔離とした。結果的には陰性だった。
- 女性1名（覚せい剤）が本部付近のコンビニで倒れており、救急車と警察が出動。本人は車に挽かれたと主張するも、特に目立った外傷は無く、職員が連れて帰った。
- 2男性1名（処方薬）、吐血のため救急搬送を自ら要請。一時的なもので特変はなく、その日のうちに帰寮。
- 男性1名（性犯罪）、裁判。
- 病床が空くのを待っていた女性1名（覚せい剤）、入院。
- 女性1名（窃盗症）携帯電話のキャリア決済で高額な買い物をして、その支払いができないと訴え、一時行方不明となったが、自ら帰寮。

3月

- 男性1名（処方薬）、飲酒による体調不良やルール・マナー違反を職員から注意される。
- 男性1名（性犯罪）、先月、住居不法侵入の疑いで逮捕されたため、再入院。
- 女性1名（窃盗症）、再犯のため、再入院。
- 男性1名（アルコール）、再飲酒。後日、断酒を誓う。
- 男性1名（大麻等）、情緒不安定のため再入院。
- 女性1名（PTSD）、自室内で倒れたために救急搬送。原因は不明だが、糖尿値が高いので、早めの内科受診を搬送先の医師から指示される。
- 男性1名（覚せい剤）、情緒不安定になり、メビウスから逃亡するも、数日後帰寮。
- 男性1名（覚せい剤）、怠薬のため再入院。
- 女性1名（窃盗症）、裁判で控訴棄却のため実刑となり、実刑が確定。後日収監。
- 男性1名（性犯罪）、実刑判決で、控訴はしない方針。
- 女性1名（覚せい剤）、情緒不安定のため、再入院。
- 女性1名（窃盗症）、昨年8月の交通事故により入院していたが、東京都内の救急病院を退院。
- 女性1名（窃盗症）、下総精神医療センター以外の内科で処方された睡眠導入剤を過剰摂取していたことが発覚し、厳重注意。

覚せい剤	その他薬物	アルコール	窃盗	摂食障害 + 窃盗	性犯罪	処方薬	ストーカー	その他
9	3	7	9	4	5	2	2	3

総在籍者 男性23名、女性21名、合計44名（令和4年3月31日時点）



鈴木理事辞任のお知らせ。

令和4年3月24日

この度は多方面にわたり大変ご心配、ご迷惑をお掛けして申し訳ありません。

私は、特定非営利活動法人メビウス千葉の役員その他、鈴木建設有限会社代表取締役、出雲大社函館教会千葉総国講社筆頭教師兼世話人（講社運営役員）の仕事をしておりました。

今回の事件は特定非営利活動法人メビウス千葉に直接関係のない事件です。

私は令和4年2月2日廃掃法違反の容疑で千葉県警千葉東警察署に検挙されました。

同年同月22日に同容疑で起訴されました。現在裁判を待っている状況です。

ことの顛末を申し上げます。

平成28年11月に、出雲大社函館教会の奉賛会千葉支部が講社となるということで同年8月島根県の出雲大社で教師養成講座に参加させていただき祝詞やお祓いの所作を学びました。

国造様から権少講義という教師の資格（出雲大社教での神官の資格）を頂きました。

宗教法人出雲大社函館教会千葉総国講社が設立され、講社設立祝5周年事業として土地探し、土地の取得、社殿の建設、境内整備の4期事業を計画しました。

土地を取得したところは筆頭教師、世話人という肩書で自他ともに認めるように私は講社のナンバー2の立場でした。一般の神社ではないため出雲大社教の講社と呼びます。

今回東寺山の社殿建設は急斜面に施工するため作業スペースや進入路を盛土して仮設しました。平地な作業スペースにはレッカーを据えることも踏まえ土砂の流れ止めと地盤強化の為に割栗石、コンクリートガラを使用しました。予算のない中での苦肉の策です。

あくまでも仮設で全ての工事完了後撤去するのが前提でした。

社殿の工事が完了しましたが残金4500万円が頂けませんでした。小川世話人が株主で栄町ソープランド不夜城を運営している会社が売れないとお金がないということでした。これがスムーズに売却できずに現在に至っております。

資金繰りが行き詰っており境内整備に着手できない状況になったのです。

つまり境内整備工事が未完成で作業スペースと進入路の仮設の部分もそのままの状態でした。

その作業スペースと進入路の仮設工事において適正な処理をしていないコンクリートガラを一時的な補強目的として地中に埋めたことが廃掃法の不法投棄にあたる違法な行為だとして検挙されました。

報道だけを見るとわざわざ神社の敷地内に捨てに行った極悪人のイメージのようですがこれは間違いです。工事の場所は、当時は神社でも境内でもない原野でありわざわざ捨てにいったのではありません。

講社のため、出雲大社の為にと、予算と時間の無い中、信念をもって社殿を完成させたことは誇りに思っています。

一方で国造様から頂いた権少講義という教師の資格をもって社会に奉仕するためと思い、一生懸命になり過ぎ、小川大世話人親子とのやりとりの過程において困難を予想させる兆候があったにもかかわらず注意が回らず、違法として検挙された工事を私が行ったことは真摯に受け止めております。また、社員や仲間を巻き添えにしてしまったことは悔やまれます。

特定非営利活動法人の規則で、裁判の結果が有罪となった場合法人格が欠格してしまうので、令和4年3月1日に辞任届を提出しました。

ことの顛末として上をご報告いたします。

尚、メビウス千葉施設長として鈴木康之はこれまで通り従事します。

相談支援事業所メビウス 動静報告。(令和4年1月～3月)

2022(令和4)年3月31日現在、登録者は11名です。内、初回利用から同じサービスを利用して
いる人は1名。別のサービスに変更した人が1名。1月以降、新たに契約した人が3名です。障害福祉サ
ービス以外の日中活動のため利用を終了した人が2名います。外部からの利用者が2名。今後増えていく予定
です。

1月

- 1名、計画変更(生活訓練→就労継続支援B型)
- 1名、利用終了。
- 1名、計画書作成(就労継続支援B型)

2月

- 1名、計画書作成(就労移行支援) ※メビウス外部
- 1名、新規契約 ※メビウス外部

3月

- 1名、利用終了
- 3名、モニタリング。
- 1名、計画書作成(就労継続支援B型) ※メビウス外部
- 1名、計画書作成(家事援助)



寄付金のご協力をお願いします。

メビウス千葉は、『千葉まちづくり応援寄附金』の対象団体となっております。

千葉市まちづくり応援寄附金制度とは、『一定の要件を満たした対象団体の中から、
応援したい団体を指定して寄附ができる千葉市の新しい制度です。「まち寄附」は、ふ
るさと納税制度による税控除を受けることができるので、まちづくり団体へ気軽に寄附
をすることができます。』(※下記ホームページより)



千葉まちづくり応援寄附金 ホームページ

<https://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/jichi/machikifu-top.html>

アルコール使用障害の恐ろしさ。

現在、内科的な病気の治療のため入院中のある寮生から闘病記(手記)が送られてきました。本人の希望もあり、ここに掲載します。

彼はメビウス千葉に数年在籍し、就労移行支援事業所に通い、一般企業に就職しました。就職して最初の一年間は通勤していましたが、新型コロナウイルスの影響により在宅勤務となりました。それ以前から時々飲酒していたのかも知れませんが、マスクで酒の匂いが隠せると考えたことや、人に会う機会が減ったためか朝から飲酒するようになっていたようです。

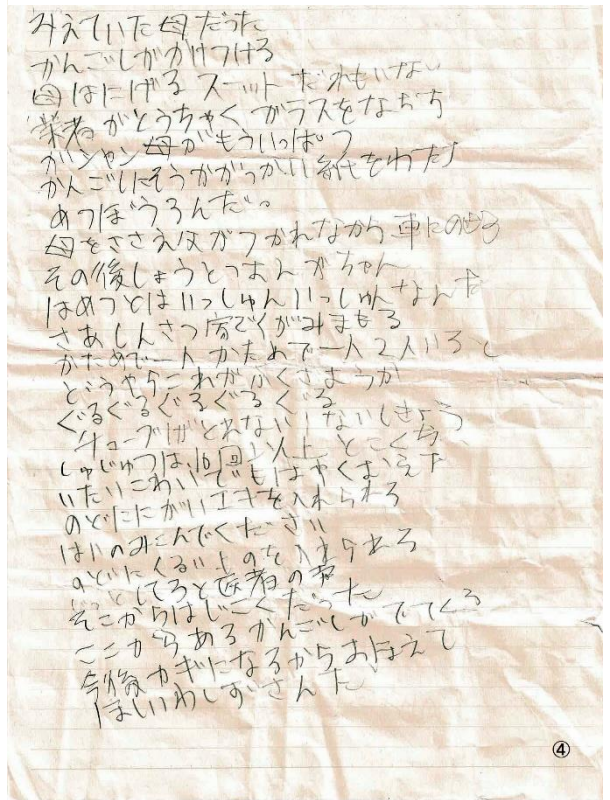
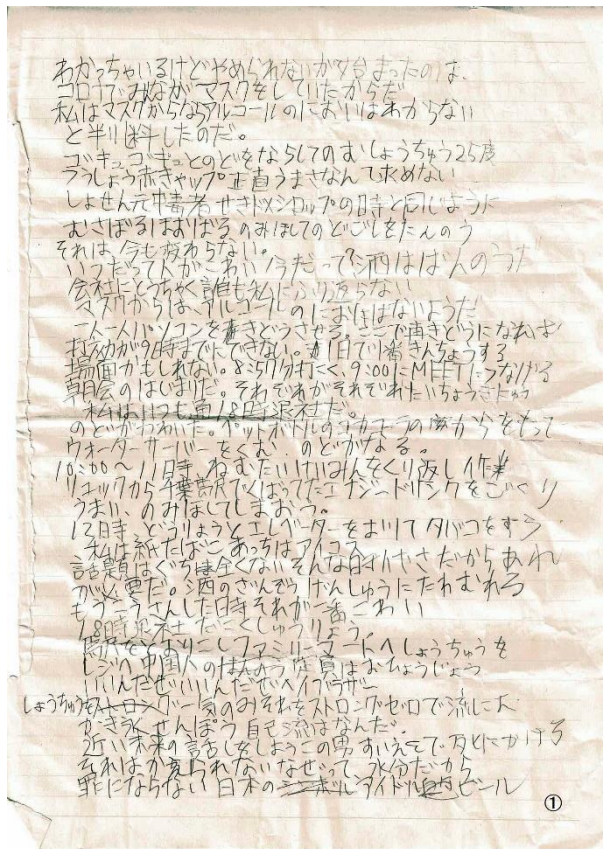
メビウス千葉では、アルコール使用障害への対応として①ミーティングの参加、②服薬確認(抗酒剤)、③おまじないや擬似、ノートの確認(CRCT維持作業の確認)、④金銭管理、⑤買い物同行を行っています。このうち彼は買い物同行を行わず、金銭管理は段階的に自己管理としていました。

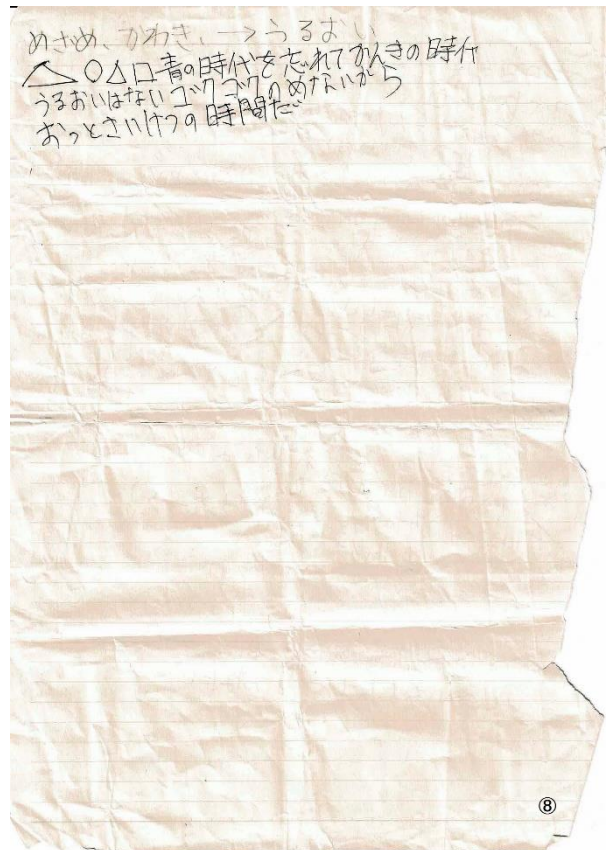
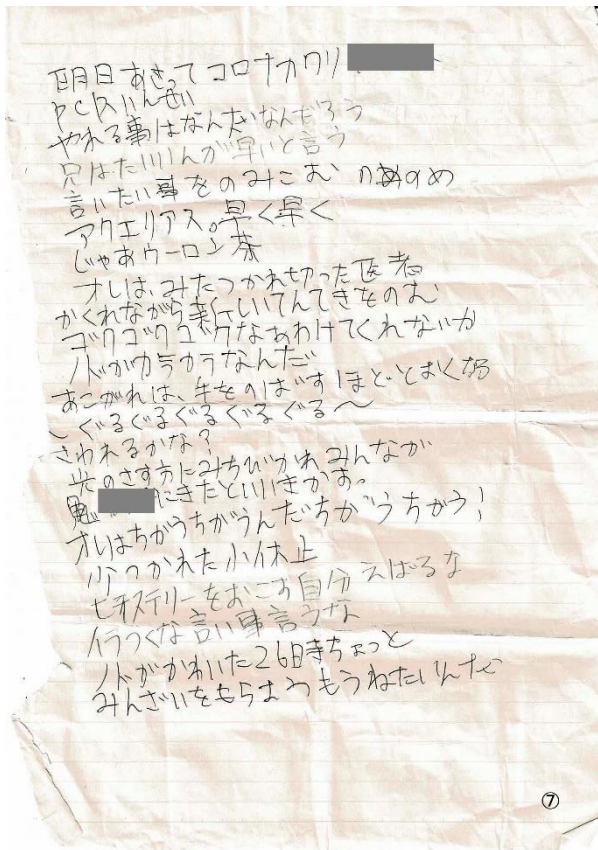
飲酒は違法行為ではないため、「絶対にやめなければいけない」という気持ちになりにくく、これぐらいならいいだろうという気持ちになりやすいようです。しかし、時には命にかかわる重篤な健康被害を起こします。過去にはメビウス在籍者で、度重なる飲酒によって命を落とした人もいます。

CRCTは欲求を低減させることができますが、欲求が完全になくなるわけではないため、本人の「やめたい」という思考がしっかりしていなければ、再発してしまいます。そして、再発することによって生理的報酬が発生し、欲求が再び高まってしまいます。

この手記の中に「人と話すのが怖くて酒の力を借りていた」という表現があります。飲酒は二次障害であり、根本には対人関係の緊張など発達障害の影響があるようです。CRCTの維持と同時に、対人スキルなどの生活能力の支援が必要と考えられます。

飲酒してしまうことは失敗のように捉えられがちですが、そこから何に気付き、本人がどのような生活を望むのか、望まないのかを一緒に考えていくことを繰り返す必要があります。本人の回復を待って、これからも頑張っていくと欲しいと思います。





この3カ月を振り返って。

以前のメビウスレポートで、メビウスのクレド（信条や行動指針）『ひとりはおみんなのために みんなはひとりのために』をご紹介しました。これは毎朝ミーティングでも唱和しています。支えられるだけではなく、誰かを支えることによって自らも回復していくという、自助グループの利点があります。しかし、中には面倒なことを人に押し付けたり、自分でできることまで人任せにしてしまう人もいます。一方で、あれもしてあげる、これもしてあげると安易に人に手を貸して、結果的に本人の自立を妨げてしまう人もいます。



「支援は苦勞の肩代わりではない」と言われます。その人が生きる力を身に着けるには、自分のことはなるべく自分でやることや、人の問題に手出しをしない分別も必要です。職員だけではなく、利用者間でも、何をやって何をやらないかの境界線を持つことが必要と感じました。

メビウス千葉の重要な支援の中に、買い物同行、社会内疑似同行、金銭管理があります。この支援も長期に及べば、職員の負担も大きく、本人がいつまでも単独での買い物に行けないというデメリットがあります。しかし、窃盗などは再発が即逮捕に繋がるリスクもあり、なかなか解除できないのが現状です。退院したばかりや入寮したばかりのころは再発リスクも高く、買い物同行や社会内疑似がコミュニケーションの場となり、その人の考え方や行動のクセを知ることができ、観察やアセスメント（見立て）の機会になります。段階的に単独の買い物、単独の疑似に移行するタイミングが難しく、解除した後も変化に気付ける関係作りが必要となります。

ワクチン3回目の接種が進み、世間では感染者数が増加する中で、今のところメビウス千葉では新型コロナ陽性者が出ていません。活動と感染予防の両立を、これからも気を抜かず続けて行きたいと思えます。